

令和5年度 第1回倉敷市食育推進会議議事録

日時：令和5年5月31日（水）13：30～15：30
場所：倉敷市保健所 302会議室

委員

出席者

秋田会長、兒山副会長
内田委員、大西委員、荻野委員、金田委員、仮谷委員、洲脇委員、田辺委員、
田野委員、中濱委員、浪尾委員、成田委員、藤澤克委員、淵本委員、三宅委員
以上 16名

欠席者

飯田委員、谷井委員、新田委員、畠中委員、藤澤卓委員

以上 5名

市側出席者

倉敷市保健所 吉岡所長、西川参事
健康づくり課 河本課長、森川課長代理、家守主幹、高木係長、乙倉副主任、石井副主任、
佐々木副主任
農林水産課 島田主任
以上 10名

傍聴者

0名

報道機関

0社

1. 開会

事務局

それでは、定刻がまいりましたので、始めさせていただきます。本日は、皆様方にはお忙しいところ、ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます倉敷市保健所健康づくり課の森川でございます。よろしくお願ひいたします。本日の出席委員は、15名で委員総数21名の半数以上の出席がありますので、倉敷市食育推進会議条例第6条により会議が成立することをご報告いたします。また、本会議は倉敷市審議会の公開に関する要綱により公開となっておりますが、本日傍聴者はおられません。報道機関も来られていません。それでは、倉敷市食育推進会議の開会にあたりまして、倉敷市保健所 所長 吉岡明彦 がご挨拶を申し上げます。

事務局

失礼いたします。本日はお忙しい中、令和5年度第1回倉敷市食育推進会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、平素から、第二次倉敷市食育推進計画の推進につきましても、それぞれのお立場でご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本計画では、平成27年度の中間評価時に現状と課題を整理し、目指す姿や取り組みの方向性を明確にし、数値だけでは表しきれない関連団体等の連携や協働による取り組みのプロセスについても重視し、推進してまいりました。中間評価時の課題から見えた若い世代への働きかけについては、「くらしき3ベジプロジェクト」の推進を踏まえ、大学生からなる3ベジ学生会議を通じて、産学官が連携した取り組みを強化してまいりました。それ以外にも、コロナ禍ではありますが、地域の関連団体等と連携して、啓発方法や場所等を工夫しながら、現在も推進しております。

今年度は、計画の最終年度であり、これら13年間の取り組みの評価とともに、来年度からスタートする次期食育推進計画の策定に向けて、年3回の食育推進会

議の開催を予定しております。本日は、委員の皆様方には、最終評価や次期計画策定に向けて、様々な観点から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

今後とも、食育活動の輪がさらに地域に広がりますよう、皆様方のご支援、ご協力を心からお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

事務局

続きまして、今年度代わられた委員の方をご紹介させていただきます。お手元の会議次第の裏面に名簿を掲載しておりますのでご覧ください。なお、本日のお席は50音順としておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。まず、今年度代わられた委員の方を紹介します。名簿7番 山陽新聞社 仮谷寛志委員、名簿10番 倉敷市議会 田辺牧美委員、名簿11番 倉敷市保育協議会 谷井沙知子委員、名簿21番都窪歯科医師会 三宅理史委員です。なお、本日所用により、ご欠席の委員は、名簿2番 飯田美知代委員、11番 谷井沙知子委員、16番 新田和子委員、17番 畠中みづ紀委員、19番 藤澤早美委員です。18番 藤澤克彦委員は少し遅れて来られる予定です。それでは、自己紹介として、各委員の方に所属とお名前をお願いします。それでは、名簿1番、秋田会長からお願い致します。

各委員

【 各委員 自己紹介 】

事務局

ありがとうございました。引き続き、事務局から自己紹介させていただきます。

【 事務局：所長、参事、課長、課長代理、主幹、農林水産課自己紹介 】

事務局

以上となります。続きまして、秋田会長に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

会長

1週間早い梅雨に入りました。天候の悪い中、関係各位の皆様方には御多忙にも関わらず、食育推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。コロナが緩和した中で、各種イベントをJAでも行っています。それに伴い、人手、人流も非常に多くなっています。JA直売所も土日は、売上が減少している現状です。経済が活性化していく中、外食も増えております。また、電気代の値上げ、小麦原料高騰、食生活が困窮している現状もあり、買い物も困っていると聞きます。しかしながら、主食の米、旬の野菜は昨年並みの金額で、それほど上がっておりません。この後、実施報告の中で各委員の活動等の報告があります。若者の野菜摂取や健康について、啓発活動、色々取り組んでおられると思います。その中で、若者に1日350gの野菜をどのようにとってもらうかということが課題となっております。先ほど言った地域の旬の安い野菜をいかに摂取していくかなどを協議していただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

事務局

ありがとうございました。協議に入らせていただく前に資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。今回の資料は、

- 会議次第、裏面に委員名簿
- 諮詢書の写し
- 倉敷市食育推進会議条例
- 資料4 スライド資料「第二次倉敷市食育推進計画指標の最終評価と次期計画の指標案」について次期計画の方向性について
- 資料5 3ベジダンスの振り付け
- 資料6 「イオン de くら★けん」

- 資料7 「やっぱり大事！早寝・早起き・朝ごはん」
「野菜嫌いに困っている方、必見！」
- 資料8 こどものための食育フェア×腸活フェアのチラシ

また、事前に郵送させていただきました

- 「第二次倉敷市食育推進計画 令和4年度事業実施評価報告 令和5年度実施事業計画（案）」冊子
○事前資料1～3

○別冊資料 令和4年度実施事業評価報告詳細、令和4年度事業実施一覧 令和5年度事業計画一覧。
こちらは本日使用しませんが、後ほど目を通していただければと思います。

以上になります。不足のものがございましたら、挙手にてお知らせください。
ありがとうございました。

事務局 続きまして、伊東市長の代理で、吉岡所長から、倉敷市食育推進会議の秋田会長へ諮問書を手交いたします。それでは、秋田会長はお立ちになり、少し横へお進みください。委員の皆様にはお手元の諮問書の写しをご覧ください。

事務局 【 吉岡所長より諮問書読み上げ、秋田会長へ手交 】

会長 ただ今、諮問書を受け取りました。次期計画策定に向けて委員の皆様、ご意見をよろしくお願いします。

事務局 これを持ちまして、諮問を終了いたしますが、吉岡所長は、ここで所用にて退席させていただきます。これより、会議の進行につきましては、秋田会長にお願いいたします。

2 議事

(1) 第二次倉敷市食育推進計画 令和4年度実施評価報告について

会長 それでは、会議次第に従い、議事を進めさせていただきます。なお、発言される際には、議事録作成のため、マイクを使用し、最初に名前を名乗っていただきご発言ください。スムーズな議事進行について、ご協力をよろしくお願いいたします。
議題(1)の第二次倉敷市食育推進計画 令和4年度実施事業評価報告について、説明をお願いします。

事務局 失礼いたします。お手元の冊子「第二次倉敷市食育推進計画 令和4年度事業実施評価報告 令和5年度実施事業計画（案）」の1ページをご覧ください。第二次倉敷市食育推進計画は、当初、平成23年度から令和2年度までの10年間の計画でしたが、国や県の計画を勘案し、次期計画を策定することが望ましいことから、計画期間を3年間延長し、令和5年度までの13年間の計画となっています。今年度が最終評価及び次期計画策定の年となっております。2ページをご覧ください。この計画は、「食で育もう 元気なくらしき～ふれ合う家族 助け合う地域 広がる食育の輪～」をスローガンに掲げ、重要な視点である「食の知識・体験」「食を通じての健康づくり」「食文化の継承・交流」「食の安全・安心」の4つの柱に基づき推進しています。5ページをご覧ください。平成27年度には中間評価を行い、

平成28年度以降の推進に向けて課題を整理いたしました。若い世代、特に男性において課題が多く、生活習慣病、特に糖尿病対策が必要であることが分かりました。その詳細につきましては、後ほどお目通しください。6ページをご覧ください。中間評価以降の目指す姿といたしましては、中間評価の課題を踏まえ、各種関連団体、職域、保育・幼稚園、学校等との連携を強化するとともに、地区特性を踏まえ地域にあった活動 展開を行い、食育が地域に根ざしていくことをを目指しております。また、令和2年度から「SDGs」を意識して取り組みを行っています。

その中でも、若い世代や男性を対象とした取り組みや、糖尿病・高血圧症等の生活習慣病予防の視点から「適正体重の維持」への取り組み、さらに、令和3年度から健康づくりに関心の向きにくい方への働きかけを強化するため、取り組みの方向性に「自然に健康になれる食環境づくり」の視点を追加し、重点的に取り組んでいます。計画の概要については、以上になります。

次に、13ページをご覧ください。これより、令和4年度の主な実施事業の評価報告をさせていただきます。

まず、(1)の世代に応じた特に糖尿病・高血圧症予防対策及び加齢により心身が老いて衰えた状態であるフレイル予防、感染症予防のための食を通じての健康づくりの主な取り組みです。健康に関心が向きにくい若い世代等への働きかけを強化するため、イオン倉敷店において、イオン倉敷店及び川崎医療福祉大学と企画の段階から会議を重ね、目的や課題を共有しながら、大学生のアイデア力・発信力等、三者の強みを活かした効果的な取り組みを行うことができました。また、食育キャンペーンから広がった商工課事業「made in くらしき」のイベントでは市商工課、農林水産課と連携し、地産地消と関連付けながら「くらしき3ベジプロジェクト」の推進を行うことができました。14ページをご覧ください。食育栄養まつりやミニ健康展などのイベントや地域での各種教室を通して、地域の関連団体等と連携し、成人、特に男性に向けたバランスのよい食事や、噛むことの大切さ等の啓発を強化しました。また、啓発場所を工夫し、手のひらをかざすと野菜がどれくらいとれているか目安がわかる「ベジチェック」という野菜摂取量が可視化できる測定機器を取り入れた測定体験を増やし、数値による動機付けを行うことで、健康に関心が向きにくいと思われる層への働きかけにつながりました。16ページをご覧ください。栄養改善協議会と協働し、2歳児歯科健康診査においては子育て世代へ、噛むことの大切さや定期的な歯科検診の必要性等について啓発を強化しました。さらに、ミニ健康展では、愛育委員が主体的に歯科のポスターやチラシを作成したり、愛育だよりで、口の機能などの衰えであるオーラルフレイル予防等について広く啓発したりしました。次に、17ページをご覧ください。地産地消の推進では、3年ぶりに開催されたくらしき農業まつりや親子漁業体験などのイベントや、「連島ごぼう」の収穫体験などを通して、地元の安全・安心で新鮮な農林水産物にふれることで、地産地消への理解を深めることができました。また、昨年度から新たに始まった「米粉の力」普及・啓発応援事業では、学校給食と絡めた啓発やイベント等を通して、米粉の消費拡大が地産地消の推進につながることを広く市民に啓発することができました。

次に、18ページをご覧ください。食品の安全性についての情報提供では、歯の健康フェアなどのイベントや講習会において、洗い残しが目に見えてわかる手洗いチェックを使って正しい手洗い方法を啓発し、手洗いの重要性について再認識してもらうことができました。次に、20ページをご覧ください。食品ロス削減ですが、高校生と考える食品ロス対策では、公民館と地元高校生、市一般廃棄物対策課・市健康づくり課が連携し、高校生が企画し、小学生と共に献立作成から実食し消費するところまで体験することで、分かりやすく効果的な啓発となりました。

2.1、2.2ページをご覧ください。令和3年度から重点的に取り組んでいる、「くらしき3ベジプロジェクト」を通じた総合的な食育の推進では、外食においては、「3ベジ推進店」の登録制度の構築にむけて、現在、食品衛生協会に所属されている飲食店3店舗をモデル店とし、3ベジの啓発や3ベジに沿ったメニューの提供などについて、検討を重ねています。また、くらしき作陽大学の協力により作成していただいた「くらしき3ベジソング」に、市保育協議会が振り付けしてくださいました。2.1ページにその様子を写真で載せております。本日、保育協議会の谷井委員はご欠席ですが、市保育協議会で作成していただいた3ベジダンスを動画でこれからご紹介したいと思います。それでは、前のスクリーンをご覧ください。

副会長

皆さん、一緒に踊りませんか？

【 3ベジダンスの動画を流す 副会長、健康づくり課職員も踊る 】

事務局

とても楽しい、子どもさんにも踊っていただけるようなかわいい振り付けを考えていただきましたので、保育園・幼稚園はじめいろいろな所へ普及していきたいと思っております。以上になります。

会長

ありがとうございました。昨日動画を見させていただけ、一緒に踊りましょうと副会長から言われましたが、ちょっと恥ずかしかったです。体操は大変シンプルで分かりやすいですし、メロディーやリズム的に園児にもよいので普及してもらいたいと思います。ケーブルテレビで3ベジについて放送している中で、JAでも、「笑味ちゃん天気予報」のオープニングで体操出演していますが、継続は力なりという言葉がありますが、各方面で出演していただいている。3ベジダンスも各事業所・幼稚園等でどんどん普及していただけたらと思います。継続しないとなかなか浸透しないと思いますので、皆さまの所属先でも取り入れていただけたら大変良いのではないかと思います。よろしくお願ひします。非常によいダンスでした。

ここまでこのとこで、委員の皆様から、ご意見・ご感想等をいただけたらと思います。せっかくですので、3ベジ推進店の制度化にむけて、検討を重ねられておられます、食品衛生協議会の方いかがでしょうか？

委員

食品衛生協会です。食品衛生協会の方では、3ベジ推進店の制度化に向けて、業界や規模の違う飲食店3店舗でモデル的に実施しております。私の方の店は児島の寿司屋で、仕出しに野菜を増やしたり、グッズを置いてみたりしたいと思います。うちの店では、健康志向の高い50～70歳代の男性が多いので、そういうところには啓発できると思うのですが、若い世代に向けた取り組みも課題だと思います。

会長

ありがとうございました。自然に健康になれる食環境づくりの整備は大切だと思います。その中でも外食、飲食店での取り組みは、効果が大きく期待したいと思いますので、制度化に向けてよろしくお願ひします。

他にも、日頃から地域に根ざした活動を行っておられる栄養改善協議会の方いかがでしょうか？

副会長

令和4年度の栄養改善協議会の活動を報告させていただきます。糖尿病を予防しようということで、倉敷・児島・玉島・水島・真備の5地区で食育栄養まつりを

工夫して実施しました。糖尿病高血圧の予防には野菜摂取が効果的ということで、自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」を知ってもらうことに重点を置きました。多くの方に野菜を日頃どれくらい食べているのか、350gとれているのか、ベジチェックを用いて手のひらで測定してもらいました。結果を見せたら、家でも野菜を作っているから大丈夫と言っていた人が、実は175gとショックを受けられたり、野菜を食べてないと言いながら350gの人もいて、どうやって食べているのかを聞いて参考にしたりした。数値で表されることで、自分の食生活を見直すきっかけとなつたように感じています。地区によつては、健康に関心が向きにくい人に、来てもらうでなく私たちが出向いて集まつてゐるところにベジチェックをしませんかと誘いました。はじめは嫌がつていた男性も、奥さんといい結果が出ると負けじとやってみると、旦那さんの方が悪かつたり、その反対だつたりとか。夫婦で同じものを食べているのにどうしてという話にもなりました。イベントに来る人は感心がある人なので、出向くことにより、関心がない人にもできる。健康づくりに少しでも興味をもつていただけたらと思って、ベジチェックをやっています。今年も11月ごろ、5地区の全会場で実施する予定にしています。1日350gのフードモデルを見せるときれいなら食べられると答えた人も多かったのですが、どのくらいの野菜を使って、何人家族で分けたか聞くと意外ととれていないかもと改めて感じた人もいました。ベジチェックをした方には3ベジオリジナルバッグを渡して、歩く広告、3ベジを広げてもらうようお願いしました。

3ベジちゃん人形は、3ベジを進めていく上で、何かないと声掛けしにくいので、作りました。健診の時に活躍しています。乳幼児健診、2歳児歯科検診、子育て世代に向けて、小さいころからの食生活の大切さ、噛むことの大切さ、バランスの良い食事、飲料に含まれる砂糖の含有量を健診の待ち時間を利用して啓発しています。農林水産課が昨年度から取り組んでいる米粉プロジェクトでは、自分たちでも後日研修会を開催しました。市長も来られましたが、地産池消、地元でとれたもの、農家が多くて米が余っているから米粉にしてという話もありました。私たちもそういう面から協力していかないといけないと感じております。今後はJAさんははじめ、各団体と協働して、健康づくりと地域づくりの輪を広めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

会長

貴重なご意見ありがとうございました。耳から入る情報もありますが、野菜の展示のように目に見えること、視覚から入ることは一つの手で、地域づくりを活性化できたらと思います。歯磨きの方ですが、我が家でも小さい頃から、子どもの仕上げ磨きをしていました。朝昼晩、食後の歯みがきなど習慣づけが大事で、野菜を食べることも周知できたらと思います。私が気になったのは、20ページの食品ロス、SDGsの件です。倉敷市の食品ロスは、調理クズ8.7t、食べ残し22tと非常に多いです。そのような中で、高校生と考える献立作って食べるという取り組みを参考に、家庭でも、子どもに何が食べたいか聞き、子どもから献立を提案してもらって冷蔵庫に残っている野菜を使って廃棄を減らす工夫や、共食をあたり前にしていきたいという話も出てきました。食品ロス、野菜を350g食べることにも繋がると思うので取り組んでいただきたいです。引き続き、事務局よりお願いします。

事務局

続いて、冊子の23ページをご覧ください。目標に対する数値の結果だけでなく、その結果に至る過程に着目し、プロセス評価用「ものさし」に従つて、数値だけでは表しきれない関連団体等との連携や協働による取り組みを、様々な視点か

ら評価しています。26ページと29ページの表の一番右端に「令和5年度に目指す姿」として17の目標を設けており、令和5年度に目指す姿の達成に向けて、平成28年度以降の主な取り組みのプロセスを、植物の成長過程に見立てて表しました。ジョーロでの水やりは働きかけやしきれいづくり、芽は協働した取り組みに向けて検討中、花は協働した取り組みの実施や継続、りんごの実は目標達成としました。ご覧いただいているように、少しづつ、取り組みが充実してきている様子がおわかりいただけると思います。

26ページと29ページの令和4年度の部分をご覧ください。目標達成したものは実の横に番号を記し、令和4年度に達成したものは赤字で記しています。令和4年度は、目指す姿に対して、新たに2つのりんごの実になりました。まず、1つ目は、26ページの令和4年度上から2つ目の枠内をご覧ください。「くらしき3ベジプロジェクト」の推進にむけて、栄養改善協議会においては、研修会で、3ベジを地域に広めていくための方法を検討していただき、愛育委員会等の関連団体と連携した取り組みが広がったことから、令和5年度に目指す姿③の「自然に健康になれる食環境づくりの視点を持って、地域の中で、関連団体間が連携した取り組みができる」ことについて目標達成とさせていただきました。2つ目は、29ページの令和4年度上から2つ目の枠内をご覧ください。イオン倉敷店やアリオ倉敷店の2か所で、川崎医療福祉大学の学生や3ベジ学生会議のメンバーのアイデアや発信力を「くらしき3ベジプロジェクト」の推進に活かしながら、取り組むことができましたので、令和5年度の目指す姿⑩の「産・学・官と連携し、自然に健康になれる食環境づくりの視点をもった取り組みが2か所以上行える」ことについて目標達成とさせていただきました。今年度も目指す姿に向けて、皆様方のご協力を得ながら、たくさんのりんごを実らせられるよう推進してまいりたいと思います。ここまで報告は以上です。

会長

ありがとうございました。ご意見やご質問はございませんでしょうか。
無いようでしたら、残りの報告を事務局よりお願ひします。

事務局

続いて、冊子の30ページをご覧ください。推進における会議の実施状況と、31ページから33ページには令和4年8月に実施した市民モニターアンケートの結果をまとめております。市民モニターの結果は、議事(3)第二次倉敷市食育推進計画指標の最終評価についての中に含めて、ご説明させていただきます。続いて、34ページをご覧ください。食育に関するトピックスとして2点ご報告させていただきます。1つ目は、「3ベジ学生会議」についてです。市内3大学の有志からなる第Ⅰ期生が「自然に健康になれる食環境づくり」の整備に向け検討を重ね、学生の柔軟な発想力やアイデアを取り入れながら、3ベジの推進に取り組むことができました。今年度は新しいメンバーを増やして、第Ⅱ期学生会議の運営にも繋がっています。35ページと資料7を併せてご覧ください。2つ目は、便秘予防と関連付けた3ベジの推進についてです。令和4年度に開催した倉敷市食育推進会議において、倉敷医師会委員より「くらしき3ベジプロジェクトをさらに推進する一手として、「朝食摂取」や「便秘改善」と関連付けるとよいと思う」とのご意見をいただき、資料7を作成しました。ご助言を頂いたことで大変充実した資料となり、安心して幼児健診等の場で活用し、幼児期からの3ベジの推進を含めた生活習慣病の予防を強化したいと思います。また、資料8のとおり、令和5年度は腸活をテーマとした「倉敷地区くらしき健康応援事業講演会」と本日ご出席いただいている委員の皆様の所属団体とともに「こどものための食育フェア」を開催し、子育て世代や若い世代がからだ全体の健康づくりを学び、体験学習で

きるようなイベントを企画しております。当日もよろしくお願ひします。

以上、実施事業報告をさせていただきました。食育の推進にあたっては、各分野の関連団体の積極的な働きかけや、地域に根ざした取り組みが不可欠であると考えております。これ以外で委員の皆様からご報告いただいた事業については、別冊資料に記載しておりますので、詳細はお目通しください。

会長

ご報告をありがとうございました。ここで委員の皆様方にご意見やご質問をいただきたいと思います。先ほどのトピックスで、便秘予防と関連付けた3ページの推進でご助言をされた倉敷市医師会の方いかがでしょうか。

委員

便秘のテレビ番組では、必ず朝ごはんを食べなさいと言われます。胃結腸反射ですが、ごはんを食べると胃が動く、胃が動くと体はごはんが入ってきたことが分かるので大腸を動かして、寝ている間にS字結腸から後結腸にたまっていた便を、その反射で大腸におろしていく。これが朝ごはんを食べなさいという理由なのですが、そのことを伝えると、すぐにメールが返ってきてびっくりしましたが、非常に分かりやすいイラストとともに作成され、とてもよい資料だと思います。

会長

貴重なご意見をありがとうございました。他にご意見やご質問はございませんでしょうか。少し時間が押していますので、最終でご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

(2) 第二次倉敷市食育推進計画 令和5年度実施事業計画(案)について

会長

今後も、各団体の強みを活かした、食育の推進にご協力をお願いします。続いて、議題(2)第二次倉敷市食育推進計画 令和5年実施事業計画(案)について事務局よりご説明お願ひします。

事務局

それでは、冊子の37ページをご覧ください。主な活動計画の中で、令和5年度に新たに取り組むことや強化することに、赤の二重線を引いています。1つ目は、「健康くらしき21・II」との整合性を図り、「食べることへの支援」を通じて健康づくりを推進します。ライフコースアプローチという考え方方が、現在着目されています。病気になるリスクは胎児期から始まっており、その後の生活習慣や生活環境をどう過ごすかが大切です。そこで、胎児期から成人期、高齢期までをつなげて考え、病気の発症を胎児期・幼少期から予防していくことが重要になります。このライフコースアプローチの視点をもって、多職種連携により、胎児期からの生活習慣病及びフレイル予防に向け、子育て世代への働きかけを強化します。また、産・学・官協働事業を拡大し、「くらしき3ベジプロジェクト」の推進を強化しながら、特に若い世代へ対して、食を通じた健康づくりに関心をもつきっかけとなるよう働きかけを行います。

2つ目は地産地消の推進で、倉敷市農業振興ビジョンを踏まえ、飲食店、関連団体と市関連部署等が連携・協働し、地産地消の普及啓発を行います。3つ目は食品の安全性についての情報提供の充実、4つ目は倉敷市食品ロス削減推進計画を踏まえた、食品ロス削減の推進をします。5つ目は、「くらしき3ベジプロジェクト」を通じた総合的な食育の推進です。その中でも、②学生会議を大事にし、産・学・官協働事業の充実を図るとともに、若い世代への具体的な情報発信についても検討します。そして、③飲食店や事業所での自然に健康になれる食環境づくりの制度化に向けて、モデル的に取り組み食環境づくりの基盤固めを検討します。さらに、④各地区の特色を活かした自然に健康になれる食環境づくりの効果的な

展開に向け、関連団体との検討を重ね、地域での推進体制を構築します。

計画の説明は以上でございます。令和5年度の事業実施計画についてご審議いただきますようお願いいたします。

会長

ここまでで、ご質問やご意見等ありますでしょうか。

それでは、皆様「令和5年度の実施事業計画案」について承認いただけますでしょうか。拍手をもって承認とさせていただきます。

【拍手】

ありがとうございます。それでは、冊子表紙の実施事業計画(案)の案を外してください。

それでは続きまして議題(3)第二次倉敷市食育推進計画最終評価と次期計画の指標案について事務局よりご説明をお願いします。

ここで、三宅委員が退席されます。三宅委員、ありがとうございました。

事務局

資料4をご覧ください。1枚めくついていただき、こちらの資料は2アップになっております。右下のスライド番号をつけておりますので、その順に説明させていただきます。それでは、スライド3をご覧ください。現在の計画は、平成23年度から令和5年度までとしており、平成27年度の中間評価では、現状把握、計画後半の推進にむけ課題を整理、指標の見直しを行い、倉敷市食育推進計画の「食を通じての健康づくり」と倉敷市健康増進計画「健康くらしき21・Ⅱ」の「栄養分野」との指標をそろえて、両計画を一体的に推進しています。令和6年度からは、次期計画がスタートするため、令和5年度に、最終評価と次期計画の策定を行います。

【4】は、最終評価に用いたアンケートで、表のとおりです。

【5】をご覧ください。各指標の判定についてはアンケート結果からこちらの判定区分に従って表しております。

【6】をご覧ください。こちらは、第二次倉敷市食育推進計画の目標値達成状況を一覧にしたもので。(6)のよく噛んで食べている人の割合以外の指標は、目標値を達成できませんでしたが、10の指標のうち、7の指標は中間評価時よりも改善しておりました。次のスライドより、アンケートによる指標の評価と合わせて、次期計画の指標として検討したことについて説明させていただきます。

【7】をご覧ください。自分で料理を作ることが「十分できる」「まあまあできる」と回答した人は増加傾向がみられました。

【8】です。年代が上がるにつれて、男性は減少傾向、女性は増加傾向がみられました。自分で料理することができる人は、栄養成分表示や主食・主食・副菜を揃える、食品ロスや地産地消等との多くの項目でよい方向で有意な関連がみられるため、今後も食育を推進していくにあたり、鍵となる指標となりそうです。

【9】です。このことから、次期指標においても倉敷市のオリジナルの指標として、継続したいと考えております。

【10】をご覧ください。「食品の廃棄を少なくするよう気をつけている人を増やす」です。中間評価時と比べると改善がみられたものの、倉敷市食品ロス削減推進計画によると、倉敷市は全国と比べて家庭からの食品ロスが多いなどの課題が見られています。

【11】です。食品ロス削減は国際的にも重要な課題であるため、一人一人が食品ロスの現状やその削減の必要性について認識を深め、自発的な取り組みができるよう関係団体や関係部署と連携して、普及啓発をしていく必要があると考えます。次期指標においては、「食品の廃棄を少なくする」を、「食品ロスを減らす」という表現に見直しをしています。

【12】をご覧ください。「適正な体重を維持する人を増やす」です。肥満ややせなどの判定に用いるBMIが18.5～25未満の「ふつう」の人の割合で、改善がみられたものの、目標値には達していません。また、肥満の人は平成22年の15.1%から令和4年の24.2%と増加しています。

さらに、性・年齢別にみると、【13】です。男性においては20～64歳の肥満、女性においては20歳代の女性にやせが多くみられました。国の調査結果からも、肥満は、男性で、やせは20歳代の割合が高いことが課題となっております。

【14】です。中学校2年生のアンケートでみえてきたことは、やせている人の半数は、自分の体型が標準体型だと思っており、ふつうの体型の人の約3割が太っていると誤った認識をしていることが伺えました。

【15】です。倉敷市の3歳児健康診査のデータですが、「太り気味～太りすぎ」は4.1%と決して多くないものの、幼児期の肥満は学童期、思春期、成人期の肥満とは違い、その後、肥満や生活習慣病に罹患するリスクが高くなることが明らかになっているため、指導を強化する必要があると考えています。

これらを踏まえ、【16】です。適正体重を維持することは、どの年代においても大切であるため、適正な体重を維持する人の次期指標として、世代ごとに、

- 1つ目 子ども（3歳児）の肥満を減らす
- 2つ目 20～30歳代女性のやせの人を減らす
- 3つ目 適正体重を維持する（20～60歳代男性）を増やす
- 4つ目 低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者を減らす

【17】をご覧ください。「朝食を食べていない人を減らす」です。現計画では中学校2年生と成人を対象にしています。中学校2年生においては、令和4年度は6.5%と中間評価時と比べると数値が改悪しています。

【18】です。朝食摂取は、主食・主菜・副菜を揃えて食べることや健康状態がよいと感じるなどの項目と良い方向で有意な関連がみられました。また、国の調査で、「朝食を食べる子ども」と「週1日以上朝食を欠食する子ども」の特徴を比較すると、保護者が朝食を食べないなどの家庭環境が影響している可能性もあることが伺えます。

【19】は、成人においてです。平成27年度の中間評価時に数値が悪化し、そのまま令和4年度アンケートでも変化が見られませんでした。

性・年齢別にみると【20】です。若い世代、特に男性においては朝食を食べていない人が多い傾向にありました。朝食を食べない理由としては、「食べる習慣がない」、「時間がない」などがみられ、朝食を食べるためには、生活習慣や生活リズムを整えることが大切であることが伺えます。

【21】です。「朝食を食べていない人を減らす」の次期指標では、中学校2年生は継続とし、今まで対象としていた20歳～64歳の市民から20～30歳代の若い世代に絞りました。変更理由としては、次世代に食育をつなぐ子育て世代にも関わらず、20～30歳代の若い世代は、朝食欠食率が高いこと、また、子どもの朝食欠食は保護者の朝食習慣などの影響を受けやすいことから、子育て世代への啓発は、子どもの朝食摂取にもつながると考えるためです。また、アンケートの選択肢を国に合わせ、「週に2～3日食べる」「ほとんど食べない」と回答した人の割合をみていきたいと思います。

【22】です。また関連項目として、3歳児においても朝食の摂取状況を確認することとします。朝食を毎日食べることは、栄養バランスに配慮した食生活や基本的な生活習慣を身につける観点から非常に重要です。今後も、幼児期からの規則正しい食習慣の基礎が身につくよう啓発を行っていきたいと思います。

【23】をご覧ください。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上

食べている人の割合は、中間評価と比べると改悪しています。国の調査においても、同様に厳しい状況で、全世代において大幅に減少しています。

年齢別にみると、【24】です。年代が上がるにつれて、増えておりました。主食・主菜・副菜をそろえて食べる人は、成人・高齢者・中学校2年生それぞれに、様々な項目でよい方向で有意に関連する項目が多いことから、非常に重要な指標となると考えております。そのため、できるだけ倉敷市の現状に近いデータがとれるようにアンケートの設問を検討しました。次のスライドで説明させていただきますが、この説明で市民の方に伝わるのか、すべての指標の説明後に、特に皆様のご意見をいただきたいので、宜しくお願ひ致します。

【25】です。新指標では、国と合わせて比較できるようにアンケートの選択肢を国に合わせました。この度のアンケートを分析する中で、カレーライスや丼物などの複合料理については、「主食、主菜、副菜を組み合わせた食事」ではないと認識しているのではないかとの懸念があり、また国の調査でも同様の見解が見られたため、料理のイラストや補足説明を追加して分かりやすくしています。また後ほど、ご意見をいただきたいと思います。

【26】をご覧ください。「よく噛んで食べている人を増やす」です。この指標は、唯一、令和5年度目標値を達成しており、年齢が高いほどよく噛んで食べていました。

【27】をご覧ください。関連項目として、なんでも噛んで食べができる人の割合をみていますが、平成27年度と比べると、増加しています。年齢別にみると、40歳代から「なんでも噛んで食べることができない」人の割合が増えており、バランスのよい食事を食べることは、なんでも噛めることと関係があるため、今後も栄養・歯科と連携し、幼少期からの啓発が重要であると考えています。

【28】をご覧ください。次期指標では、くらしき3ベジプロジェクトの「ベジもぐ」を評価するためにも、「よく噛んでゆっくり食べている人を増やす」に見直しました。

【29】です。「家族と一緒に食事をする人を増やす」です。中学校2年生において、家族と一緒に食事をする人は、目標には達していませんが、改善傾向がみられました。また、家族と一緒に食事をすることは、健康状態や主食・主菜・副菜をそろえて食べていることなどと良い方向で有意な関連がみられました。

【30】です。倉敷市の3歳児健康診査問診票より、状況を見てみると、一人で食事をとる子どもが増加傾向にあるといった課題がみられました。

【31】です。次期指標においては、対象を中学校2年生から3歳児に変更しました。共食をすることは、規則正しい食生活や朝食や、主食・主菜・副菜をそろえたバランスのよい食事の摂取などと関係あることが報告されおり、乳幼児期から共食を定着させるよう保護者への啓発を強化し、健全な食習慣の確立を目指していきたいと考えています。

【32】をご覧ください。地産地消に努めている人の割合は、中間評価時と比べると、改悪しております。

【33】です。国の調査から、「環境に配慮した農林水産物・食品の選択」と「栄養バランスに配慮した食事の摂取頻度」には関連がみられました。また、倉敷市のアンケート結果でも、地産地消に努めることは、主食・主菜・副菜をそろえた食事や食品の廃棄についての意識、調理技術と良い方向で有意な関連がみられました。このことから、地産地消と食事バランスを関連づけて啓発することで相乗効果があると考えております。

【34】です。次期指標を検討するにあたり、国の指標を確認し、「地産地消を意識して、農林水産物・食品を選ぶ人を増やす」に変更することとしました。

【35】をご覧ください。食の安全性について十分な情報を持っている人の割合は、中間評価時に比べて改善しており、年齢別にみると、「得られている」と回答した人は、20歳代で多い傾向にありました。

【36】です。次期指標においても、倉敷市第7次総合計画とともに、継続したいと考えています。

【37】では、調理前の手洗を実践している人の割合は、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、中間評価時に比べ改善がみられました。

【38】です。次期計画においては、指標とはしませんが、関連項目として、調理前に限らず、感染症予防も鑑み、手洗いの実践状況を把握していきたいと考えております。

【39】をご覧ください。ここからは、新しく追加したい指標を説明します。倉敷市の健康課題として、「高血圧症の人が多い」ことがあげられており、減塩は血圧を低下させるため、その取り組みを強化していく必要があると考えております。そこで、新指標として「塩分をとりすぎないよう意識している人を増やす」を追加しています。

【40】をご覧ください。災害経験や感染症等に備え、「家に食品の備蓄をしている人を増やす」です。アンケートでは、非常用食品の備蓄をしているか、また、何日分の食品の備蓄であるか、さらに何を備蓄しているか把握したいと考えています。特に、高齢者をはじめ、食べる機能が弱くなった方、食物アレルギーを有する方等に配慮した食品を備えておくことが重要であることから、指標を追加しています。

【41】です。「地域等で共食している人を増やす」です。社会的なつながりを持つことは、喫煙や過度の飲酒、肥満等のリスクを低下させ、精神的・身体的健康、健康習慣、死亡リスクなどの結果によい影響を与えます。また、地域とのつながりが豊かな人ほど、様々な人との交流や社会活動に参加する等のきっかけとなることから、健康状態がよいといわれています。共食の多い人はストレスが少なく、自分が健康だと感じている人が多い一方で、孤食が多い高齢者はうつ傾向の人が多くみられるというエビデンスから、指標として追加しています。アンケートでは、「過去1年間で、誰と共に食事をしたか」と「誰とも食事を共にしていない人へは、その理由」を聞くこととしています。

【42】をご覧ください。令和3年度から取り組んでいる自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」についても評価できるように、次期指標に入れていきたいと考えています。一つ目の野菜の食べ方、「ベジわん」の評価として「一口目に野菜を食べている人を増やす」を追加しています。

【43】です。先ほど、28でも説明させていただきましたが、二つ目の野菜の食べ方「ベジもぐ」を評価するため、「よく噛んでゆっくり食べている人を増やす」に見直しをしています。【44】最後にベジもり、「たくさん、350gの野菜を食べる」についてです。国の調査では、野菜を350g以上とれている人は約30%でしたが、今回のアンケートでは、「5皿以上」と回答した人は3%で、国の調査と比べると非常に少なかったという結果でした。アンケートのきき方によっては、個人のとらえ方による誤差が大きいため、できるだけ正しく摂取量が把握できるようにアンケート項目の検討が必要と考えました。次のスライドでは、ベジもりの評価として、検討に検討を重ねた設問案1と案2を説明させていただきます。こちらも主食・主菜・副菜のアンケートとともに特にご意見をいただきたいので、宜しくお願い致します。

【45】です。最終評価アンケートでは、野菜料理の摂取量を皿数で聞き、野菜を主な材料とした料理と補足説明をしていますが、1皿分がどれくらいの量か分

かりにくく、カレーや丼もの等に含まれる野菜がカウントされていないのではないかという懸念もあったため、案①として、赤字の説明を補足し、野菜料理1皿分、2皿分の目安量をイラストで示しています。

【46】です。もう一つの案として、野菜50gの目安量をイラストで示し、野菜の摂取量は何g程度かを聞くこととしました。案①、案②では、どちらが市民の方に伝わりやすいのか、後ほど皆様のご意見をいただきたいと思います。

【47】をご覧ください。くらしき3ベジプロジェクトの3ベジ推進店の制度化に向けて、これら3つの食環境整備に関連する項目について聞き、現状を把握する必要があると考えております。

【48】です。また、野菜だけでなく果物を1日200g摂取することで、高血圧、肥満及び2型糖尿病などの発症リスクや全死亡のリスクの低下が示されています。また、岡山県は、くだもの王国として全国的に有名で、倉敷市でも桃やぶどうの栽培が盛んです。過剰摂取も含めた果物摂取の現状を把握し、健康づくりの観点及び地産地消の面から推進内容や方法について検討する必要があると考えております。

【49】をご覧ください。次期計画における目標・指標（案）の一覧です。第二次倉敷市食育推進計画では10の指標でしたが、次期計画では、18の指標と6の関連項目を想定しています。以上で、第二次倉敷市食育推進計画指標の最終評価と次期計画の指標案の説明を終わります。

会長 ありがとうございました。委員の皆様、ご意見をいただきたいと思います。まず、スライド25の「主食・主菜・副菜のアンケート内容」についてのご意見をお願いします。

委員 主食、主菜、副菜については、栄養の勉強をしている学生に話をしたときにこの言葉を使ってもピンとこない学生もいるくらい分かりにくいので、図で示すのは分かりやすいのでよいと思いました。

会長 ありがとうございます。では、中学2年生を対象とした指標もありましたが、中学校長会の方いかがでしょうか。

委員 中学生は給食を食べているが、小学校と比べて量も増え、いろんなことを気にしながら、残量が多くなっているのが現状です。ただ、食に興味がないのかというと別で、部活動をしている生徒は、朝、給食、夜の食事を自分なりに管理している人もいます。昨年度、部活動のパフォーマンスをあげるということで、県の事業として栄養教諭を中心に、一つの部活を取り上げて食のアンケートを取りながら、食の改善をするという取り組みをしました。中学生も機会があれば、考えてしっかり食べるようになり、記録も伸びていく、子どもたちにとっても非常に興味がある取り組みだったと思います。

会長 ありがとうございました。次にスライド45、46の「ベジもり、野菜350gに関するアンケート内容」について、案①がよいか、案②がよいかご意見をお願いします。

副会長 手ばかりを使って1日350g、「両手に3杯」と歌にもありましたが啓発をしています。アンケートを見ていると、副菜という言葉が分かりにくいくらいと、県でもそういう話を聞きました。案②の野菜50gの目安量が書いてありますが、私たちも一皿70gの野菜を摂るとよいと高校生にも言っていますが、料理をしない人

には、1日何グラムというのは分かりにくいです。若い子にも聞いたが、上の絵で示した方が分かりやすいと思います。私たちも今まで小皿とだけ言っていたけど、啓発の方法を変えていかないといけないのかなと思います。料理の絵があり説明もあるので、案①が私は分かりやすいと思います。

委員

南地区は10の小学校がありますが、昨年11月に県の栄養士会から市教委を通して依頼を受けて、家庭科の研究授業を行いました。体にいい献立を考えようということで、担任と栄養士がTTで進めました。その時、献立を考えるにあたって、具体的に野菜サラダ、ぎょうざ、揚げ物が子どもたちに分かりやすかったです。タブレットで画像を切り貼りして、簡単に献立を考えられるソフトがあります。それを使って、子どもたちがまずは自分で、朝昼晩とメニューを考えました。もう一つ加味したのが、地産地消をなるべく取り入れることです。出来上がった献立を隣の友達や4人くらいのグループで見せ合い、どうしてそれがよいと思ったのか話し合いました上で、これが一番いいというメニューをグループごとに提示しました。色々な献立を示して、ディスカッションをしたという流れでしたが、他の学校の栄養士からも好評で、勉強になったとの感想をもらいました。コロナ禍で、家庭科の調理実習ができていないので、家庭でお手伝いをしている子もいますが、家庭でもあまりしていないことが多いあって、子どもたちには皿に載っている状態の方が分かりやすいし、ストンと腑に落ちるのではと思いました。

会長

非常にいいお話をありがとうございました。私も考え方には賛成というか、そういう風にできたらと常々思っていたところです。子ども主体で、子どもが給食で食べたいものや作り方等を聞いて、先ほども申したように冷蔵庫の中の残り物を使って献立を考えたりできたらと思います。私は西浦小の出身で、神亀小はまとまつた学校という印象がありますが、今の話を参考に、もっともっと食に対しての興味が湧くような活動をしていけたらと思います。

それでは、時間の関係上申し訳ないですが、スライド45の案①か46の案②のどちらが分かりやすいか、挙手をお願いします。

【 挙手 】

ありがとうございます。それでは、スライド45の案①をお願いします。

その他、次期指標について、ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

続きまして、議題(4)次期計画の方向性について事務局よりご説明お願いします。

(4) 次期計画の方向性について

事務局

資料4の【51】をご覧ください。こちらは小さくて見えにくいので、事前に配らせていただいております資料1の方をご覧いただけますとわかりやすいと思います。どちらでも結構ですので、お手元にお願いします。それでは、次期食育推進計画の最終評価及び次期計画の策定スケジュールについてです。まず黄色い線のところです。現在、国では第四次食育推進基本計画が推進されており、オレンジの健康日本21は次期計画の策定に向け検討されております。これら2つの計画の方向性や内容をふまえ、倉敷市においても次期計画の策定を進めています。右の赤枠をご覧ください。次期計画策定にあたり、今回の1回目では、次期計画の指標案をご検討していただきました。これを踏まえ、6~7月に、各指標の現状と指標の目標値を決定するためのベースライン値を決めるためのアンケートを予定しています。そして今年度は、今回を含めて3回の会議を予定しており、10月の2回目の会議では、次期計画書の案をご審議いただくこととしています。その

後、11月には市民の皆様方に広く意見をきくパブリックコメントを実施し、来年2月の3回目の会議では、次期計画書の最終案を皆さんにご審議いただき、計画の答申を経て、3月に次期計画が完成する予定となっております。そして、次期計画では、倉敷市健康増進計画「健康くらしき21・Ⅱ」との統合を考えておりますので、これより統合に向けての説明をさせていただきます。【52】をお願いします。キーワードを赤枠で囲っておりますので、着目しながらお聞きください。令和3年度から推進されている国の第4次食育推進基本計画を踏まえ、現在、倉敷市においても胎児期から成人期、高齢期へとつなげて考えるライフコースアプローチの視点を持ち、生涯にわたる食を通じた健康づくりを、そして、自然に健康になれる食環境づくりとして「くらしき3ベジプロジェクト」を通じて食環境を整備し、健康寿命の延伸を目指すこととしております。また、健康づくりと食品ロスの削減や地産地消の推進、食の安全安心の分野を連携させながら、持続可能な食を支える食育の推進を行っております。推進にあたっては、行政と地域の関連団体、学校等が相互の理解を深め連携し食育を推進することで地域とのつながりを深めることを目指しています。

【53】をお願いします。これは健康増進計画の説明です。国第三次健康日本21の方向性のイメージ図です。こちらも赤枠のところを着目してお聞きください。ご覧いただいているとおり、先ほど説明しました食育推進計画と同様に、図の下からライフコースアプローチ、自然に健康になれる環境づくり、社会とのつながり、健康寿命の延伸など重なっている部分が大変多くなっております。さらに右側の黄色の枠内をご覧ください。国から示されているものですが、「市町村の健康増進計画策定にあたっては、食育推進計画など他の関連する計画との調和に配慮することや、食育、農林水産、経済・産業等の分野における取組と積極的に連携することが必要である」と示されています。健康づくりを広くとらえた形となっております。

次に【54】です。倉敷市では、平成23年度から第二次倉敷市食育推進計画及び倉敷市健康増進計画「健康くらしき21・Ⅱ」を推進し、平成27年度に行つた両計画の中間評価の結果を受け、平成28年度から糖尿病予防の啓発を強化することとしました。そして、よりわかりやすく効果的に推進するために、食育推進計画の「食を通じての健康づくり」の部分と「健康くらしき21・Ⅱ」の「栄養分野」との指標をそろえ、二つの計画がより一体的に推進しやすい環境を整えました。さらに、令和3年度からは、自然に健康になれる食環境づくり「くらしき3ベジプロジェクト」を両計画に位置付け、健康無関心層も含めた生活習慣病予防や健康づくりの啓発に取り組んでおります。このように、両計画は密接な関係にあり、すでに多くの取り組みを一体的に推進しております。

ただいま藤澤委員が到着されました。これより藤澤委員、よろしくお願いします。

【55】です。統合することで、両計画が目指す姿が市民へよりわかりやすく提示でき、現在食育推進計画のみにある「食の知識・体験」「食文化の継承・交流」「食の安全・安心」の分野が健康増進計画に加わることで、関係団体や部署間の連携が増え、健康づくりが強化されるだけでなく、食育の輪もより一層広がることが期待できると考えております。ぜひ、このことについて御理解いただき、御承認いただきたく思います。

会長

ありがとうございました。次期計画の方向性については、説明をいただきました。食育推進計画と健康増進計画を統合することについてご意見やご質問をお願

いします。副会長いかがでしょうか。

副会長

私は、食育推進計画と健康増進計画の両方の審議会に参加させていただいております。食育推進計画の健康づくりと健康増進計画の6分野の1つ、栄養分野は、指標も同じで、一緒にしていただいた方が食育推進会議メンバーが健康づくりのことも分かるので、その方がいいと思います。「元気なくらしき」を目指していくためには、両方を統合して、一緒に計画した方がよいと思います。先日の健康増進計画の審議会でも、このことについて審議されました。私は次期計画の統合はいいと思います。

会長

ありがとうございます。食育推進計画と健康増進計画を昨年12月頃に拝見させて頂いたところ、合同で計画を立てたいというお話を聞いています。そうした中で、皆さんも、お忙しい中集まっていますが、内容的に同じということで一度の会議で済み、事務の効率化、コスト削減等もでき、より一層分かりやすい取り組みや情報発信ができると思っております。次年度から一緒にしたらどうかという案が出ておりますが、委員の皆さんいかがでしょうか。

一つの計画に統合していただけるということでよろしいでしょうか。承認いただける方は、拍手をお願いします。

【拍手】

ご承認いただきありがとうございました。次回2回目の推進会議では、両計画を統合した計画案をお示しさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、もう時間がないようなのですが、全体を通して、ご意見等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

本日は、委員の皆様方から貴重なご意見も多数いただきました。次期計画策定に向けて、推進会議は2回目、3回目と続きますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。それでは、これをもちまして、本日の倉敷市食育推進会議を終了させていただきます。円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。では、事務局へお返しします。

事務局

ありがとうございました。それでは、閉会の挨拶を倉敷市保健所 参事 西川より申し上げます。

事務局

失礼いたします。保健所参事の西川でございます。

本日は、お忙しい中、ご出席いただき、また、それぞれのお立場から、貴重なご意見・ご発言を賜り、誠にありがとうございました。

この度の食育推進会議では、令和4年度実施事業評価報告及び令和5年度実施事業計画に関するご審議に加え、次期健康増進計画と次期食育推進計画の統合に向けてご承認をいただきました。

本日いただいた貴重なご意見を踏まえ、次期計画の策定に向け検討を重ねてまいる所存でございます。そして、引き続き、目指すべき姿である「食で育もう 元気なくらしき」の実現のため、家族のふれあいや 地域での助け合いに繋がる「食」に関する様々な施策に、取り組んでまいりますので、皆様方におかれましても、今後とも、本市における 食育の推進にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本日は長時間にわたるご審議、誠にありがとうございました。簡単ではございますが、閉会に当たってのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局

次の食育推進会議の日程でございますが、次第の一番下にありますように、
10月18日、水曜日、そして3回目は、2月1日、木曜日を予定しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。これをもちまして、令和5年度 第1回食
育推進会議を閉会いたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。
この後、8月に予定しております「子どものための食育フェア」の打ち合わせ会議
をさせていただきます。該当される委員の皆様にはお疲れのところ恐縮ですが、
引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。皆様お気をつけてお帰りください。

令和5年 7月 19日

倉敷市食育推進会議

会長 秋田 誠



